



県民の森 植物紹介(34)

ーミズナラ (ブナ科)ー



名前の由来は、ナラと総称されるコナラ属の落葉樹の中でも、樹液が多く、伐採時に樹液が滴り落ちることからミズナラと名付けられました。樹液は甘くて、夏にはカブトムシやクワガタなどが樹液目当てで集まります。花は、葉が出ると同時に開きます。雄花は新枝の下部から長く垂れ下がりますが、雌花は新枝の上部から出て目立ちません。



ミズナラのどんぐりは学習館の工作材料としても使われており、たいへん人気です。

どんぐりの木として代表的なミズナラとコナラは、とてもよく似ています。ミズナラの葉の柄は非常に短いのですが、コナラの葉柄は長くはっきりしていることから見分けることができます。

ミズナラのどんぐりは栄養たっぷりで、多くの動物たちに利用され、他の場所に運んでもらって、子孫を増やしています。ツキノワグマもミズナラのどんぐりが大好きです。タンニンを多く含むので、人間はそのままでは渋くて食べられないですが、時間をかけて灰汁抜きをすれば食用になり、縄文時代には冬の保存食として活用され、近年まで食用とされていたそうです。

材は、建築材や高級家具として利用されています。特に洋酒樽としての利用は有名で、オーク樽とは異なる風味を醸造できる材として国産のウイスキーでよく知られていますが、近年はスコッチの一部でも使用され、国際的にも高い評価を受けています。



ミズナラの花 5月17日



新緑のミズナラ 6月6日



若いどんぐり 9月20日